

## 大学の知見を地域課題解決に生かす共創空間

レポーター ひろ記者 津森正裕、高村秀樹

広島大学法学部が2023年4月に東広島キャンパスから広島市中区東千田キャンパスに移転した時期に、地域の課題解決を図るために開設された、広島大学の「地域連携フロア SENDALAB」をご存知でしょうか。地域連携コーディネーターの片岡吉晴さんに施設の目的と活用状況を聞きました。



▲片岡吉晴さん

地域の共創空間SENDALABについては、次の5つの視点から施設を設置しました。

### ①リカレント教育と生涯学習の拠点

知識や技術を学ぶ研修会・公開講座、企業・団体によるシンポジウム・研究会等

### ②防災・減災の拠点

自治体職員・防災士向け研修、地域団体による防災セミナー・ワークショップ等

### ③産学連携による起業支援

アントレプレナーシップ教育、ビジネスフォーラム、イノベーションワークショップ等

### ④自治体や地域団体等との連携拠点

街づくり研究会、地域団体交流会、異業種交流会等

### ⑤様々な人を惹きつけるオープンコミュニティの形成

市民・地域団体と大学との交流イベント、大学と企業とのネットワークづくり

大学が有している知見を基に学びの場を提供するため、一般市民も参加できる公開講座やセミナー、ワークショップなどを開催するとともに、

企業・地域団体や行政機関などが実施するイベント等にも施設の利用を提供しています。ここでは、地域連携と防災について紹介します。

### 〈地域との連携〉

地域との繋がりを深めて街の活性化を図るため、千田地域商店街と学生が連携した新入生まち歩きイベントや千田祭などを実施する連携協議会の開催のほか、社会福祉協議会などの地域団体による定例会や交流会、NPO法人による市民サミット、企業団体による異業種交流会などの場として活用され、大学との繋がりを構築しています。



▲地域連携フロア

### 〈防災・減災の拠点〉

大学が中心となって実施した「千田学区自主防災会防災フェア」や「防災・減災セミナー 2024」のほか、自治体による研修にも利用され、人材育成の場として活用されています。



▲千田学区自主防災会防災フェアの様子

また、防災団体とも連携して交流・活動の場を提供しており、自治体や防災団体、地域団体等と連携して、大学の防災・減災研究センターの研究者や専門家により、防災に関する普及啓発や人材育成を行うとともに、その活動の場として利用されています。

皆さまの団体等で活動される際にはぜひご利用いただければと思います。設備概要、施設費用等はホームページで確認ができます。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶ <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>



## らしくコラム

Rashikku column

### 災害を「自分ごと」と捉えて備えられますか？

「8.20広島土砂災害」から10年が過ぎました。八木・緑井地区（広島市安佐南区）などでは、当時はまだ、「土砂災害（特別）警戒区域」指定がなされていませんでした。8月20日は、午前1時半過ぎから4時頃にかけて「線状降水帯」による激しい雨が降り続き、午前3時過ぎから4時頃にかけて多数の土石流等の発生につながりました。行政による「避難勧告\*」等の発令は災害がすでに発生した後でした。それゆえ、土砂災害の危険性を地域住民があらかじめ知っていなかったこと、多くの住民が災害発生に迫る状況に気づけずにいたこと等で、被害が甚大なものになったと報道されました。

しかし、土砂災害のハザードマップはすでに2000年からは公開されていたのです。32人の（うち、24人が土砂災害の）犠牲者を出した1999年「6.29広島土砂災害」の頃は、ハザードマップはまだ公開されていませんでした。危険なところがどこにあるのかを住民に知らせることが必要だとの声が高まり、2000年6月半ばに、広島市が市内の全世帯にハザードマップを配布しました。その後、Web上に広島県「防災情報システム」などが整備された際に、県内全域の「土砂災害危険箇所図」の公開もなされるようになったのです。すなわち、2014年「8.20広島土砂災害」の時にはすでに土砂災害のハザードマップが誰にでも見られる形で公開されていたわけで、それが知られておらず活用されていなかったということになるのです。

「避難勧告\*」等については、「8.20広島土砂災害」の時には、発令時にはすでに強雨が一段落し、夜が明けつつありました。避難しようとした住民の中には、家のまわりが濁流で取り囲まれていて外へ出られなかった、と証言する報道もありました。行政の「避難勧告\*」等が遅すぎるという声も多く報じられていました。8月20日午前1時15分には、広島市全域に「土砂災害警

戒情報」が出されていましたが、当時の行政にとっては、まっ暗な時間帯で、激しい雨が降り続く中での避難行動の危険さに、なかなか発令に踏み切れなかったのだと思います。仮に、実際に「避難勧告\*」等が土石流等の発生直前に発令されていたら、避難行動の途中で土石流等に遭遇する避難者が多かったかもしれません。

2018年7月の「西日本豪雨」では、数日間にわたり総雨量400～600mmを超える大雨が降りました。大雨の後半、7月6日の夜と7日未明の時間帯に強雨が降ったところでは、土石流等が集中的に発生して大災害となりました。災害の発生前の早い段階から「防災気象情報」や「避難情報」等も出されていましたが、「適切な避難行動」には結びつかず、避難途中の犠牲者も多く出てしまいました。

いかにすれば、災害を「自分ごと」ととらえて、命を守る適切な行動をとれる人を増やせるのか、まさにそこにかかっているような気がするのです。（\*2021年5月20日以降「避難勧告」の用語は廃止、「避難指示」に一本化されています）



**Profile**  
広島大学 防災・減災研究センター長・特任教授  
**海堀 正博**

専門は砂防学。豪雨などによる崩壊や土石流の発生・流動のメカニズムの研究の他、近年は特に、降雨の形態や雨量などを土砂災害発生時の警戒・避難の基準に使うための研究などに取り組んでいる。平成30年5月～令和2年6月まで公益社団法人砂防学会会長。令和5年9月に「防災功労者内閣総理大臣表彰」受賞。

## ようこそ！ 公民館へ

### ～安佐南区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

### 1 紙芝居屋こいち

古市公民館

「紙芝居屋こいち」は、昨年度、古市公民館の声かけにより、公民館に寄贈された古市出身のパレーボール選手猫田勝敏さんの紙芝居「猫田勝敏物語」を読んで、地域に広めようという目的で「紙芝居を読んでみよう会」として活動をスタートしました。

昨年度は、ふれあいまつりでの上演を目標に、まずは子ども向けに文章を練り直し、読み合わせや演出を考え、練習を重ねました。ふれあいまつりでは、たくさんの地域の方々に紙芝居を観てもらうことができ、大変好評を得ました。

まつり終了後も引き続き活動を続けていくことになり、会の名称を「紙芝居屋こいち」と改め、現在8名の会員で毎月第4日曜日の10時から12時に古市公民館で活動しています。

今年度は、ふれあいまつりへの参加はもちろん、子ども会行事や老人介護施設での上演など積極的に紙芝居の実演に出かけ、活動の場を広げています。今後は、新たな紙芝居づくりにも挑戦してレパートリーを増やしていきたいと思っています。紙芝居の好きな方、興味のある方、一緒に活動してみませんか。



### 2 せせらぎ花さんぽ

佐東公民館

佐東地域には太田川の支流、古川があります。第一古川、第二古川の二つの流れと

その周辺が整備され、せせらぎ河川公園と呼ばれています。そこが私たちの活動場所です。

古川流域には、古くから日本にある在来種、外国からきた外来種を問わず、珍しい植物が多く生息しています。2022年に『せせらぎ河川公園の植物ハンドブック』の製作に参加した私たちは、とくに在来種が絶滅しないように広く知ってもらいたいと思いました。

2024年4月から活動を開始。植物好きの仲間を募り、月に2回、植物観察会を開いています。第1と第3日曜日の午前中、2時間ほどです。古川の土手を歩き、「あんだだれ?」という未知の植物を探して名前を教え合ったり、インターネットや図鑑を引っぱり出して調べたり、インターネットや図鑑を引っぱり出して調べたり、みんなで力を合わせて名前探しをしています。どうにか名前に行き着いたときの喜び。手を取り合っぴょんぴょん跳ねることはできませんが、快感を共有しています。



### 3 オアシス

東野公民館

東野公民館で、毎月第4日曜日の10時から12時まで活動しているグループです。公民館の主催事業をきっかけに約10年前から活動を始めました。和やかな雰囲気の中で、みんなでフラワーアレンジメントを楽しんでいます。

講師の先生は毎年ヨーロッパに勉強に行かれ、最新のお花のアレンジを伝授してくださっています。そのおかげで、グループメンバーはヨーロピアンスタイルの文化や知識を、フラワーアレンジメントを通して学び、さりげない自然の彩りを暮らしに取り入れています。

また、毎年夏休みに小学生親子を対象にフラワーアレンジメントの体験教室を開いています。子ども達は自分なりに工夫しながら、素敵なフラワーアレンジメントの作品づくりに取り組んでいます！親子で協力して作ったフラワーアレンジメントは、世界に一つだけの大切な作品となっています。

フラワーアレンジメントを体験したことがない方も、ぜひ見学に来てみてください。私たちと一緒に花のある豊かな暮らしを始めてみませんか。



### 4 シニアコーラス山本

祇園西公民館

「シニアコーラス山本」は、歌で元気に楽しくなる場としてスタートし、12年目になります。活動日は第2木曜日（9時半～11時半）、月に1回です。

初めに、脳細胞を活性化する手動作などを入れての軽い体操、そして、「目を見開いて～、口を大きく開けて～」と声出しをします。その後、季節の歌や懐かしい歌を歌い、合間にそれらにまつわる話をペチャクチャ…。

段々と欲が出て、斉唱だけでなくコーラス曲にも挑戦。ハモると上手くなった気分で大満足しています。リズムが楽しい曲には、ちょっとしたフリも頑張って入れています。

発表は、老人会総会・敬老会・公民館まつり、そして、地域の音楽イベントなどです。いつもより少しおしゃれな服装をして口紅をさし、「いざ、コーラス！」と舞台上に立ちます。心臓はドキドキ、でも心はワクワクです。一緒に楽しく歌いましょう。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 古市公民館 …………… ☎082-877-2677
- ② 佐東公民館 …………… ☎082-877-5200
- ③ 東野公民館 …………… ☎082-876-1146
- ④ 祇園西公民館 …………… ☎082-875-1760

# 名人宝人 達人

## Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

### 図書ボランティアわらっと

### 読み聞かせや影絵、ブラックライトシアターなどで 昔話・童話の魅力を子どもたちに伝える

子どもたちに昔話や童話など「ものがたり」の世界の楽しさを、本の読み聞かせや影絵、暗闇に絵が浮か上がる動きのある大型紙芝居ブラックライトシアターなどさまざまな活動を行っているのが「図書ボランティアわらっと」の皆さん。

代表の砂田さんは、もともと大州小学校のPTA活動の一環として活動を始めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動自粛を避けられず、考え抜いた末、令和3年に数人の有志と任意団体として活動を始めました。

「自粛期間中、何もできないもどかしさに居てもたってもいられず、自分たちでやってみようと思い、仲間に声掛けして始めたんです」。

拠点とする大州児童館や放課後児童クラブを中心に地道に活動していくうちに、依頼があれば色々な所を訪問したいと思い、令和5年12月に人材バンクに登録しました。「活動する中で、もっと人との繋がりを広げたい。知らない人に、ものがたりの世界の楽しさを伝えたい、そんな強い思いが湧いてきたんです」と砂田さん。

令和6年7月には人材バンク発表会や、安芸区図書館でのイベントにも出演するなど、皆さんの活動は広がっています。その一方で、初めての場所での読み聞かせや、ブラックライトシアターを行う際は、お客さんの反応が気

なっているそうです。定番のレポーター『ジャックと豆の木』『アリババと40人の盗賊』など、聞く人がどんな表情で聞いているのか、世代や人数に応じてアレンジを変えた方がいいのか、試行錯誤しながら活動しているそうです。

「活動は主に平日の午後、メンバーが空いた時間を使って、発表で使うものの制作を中心に行っていますが、それぞれのライフスタイルの変化に伴い、制約も出てきています。その折り合いをどうつけるのが課題です」と砂田さん。その課題をクリアするためにも、一緒に活動してくれる仲間をどうやって増やすのか、考えているそうです。「昔話や童話の魅力をもっと伝えたい。また、レポーターを増やすためにも仲間が必要です。伝え方も、手話や字幕を使った形にも挑戦したい。令和7年には発足5年を迎えますし、いろいろな事に挑戦したいです」と意気込みを語ります。積極的に活動に取り組む皆さんの今後の楽しみです。



▲代表の砂田あかねさん



▲絵本の読み聞かせの様子(令和6年6月)



▲ブラックライトシアターの舞台裏

▲メンバーの皆さん

### あなたらしく、ボランティア活動をはじめませんか? 「まちづくりボランティア人材バンク」への登録を お待ちしております。

自分の知識や技術、特技を生かして「ボランティア活動がしたい」、「地域社会の役に立ちたい」…しかし、いざ何かしたいと思っても、どこで、どのように、活動の場を探せばいいのか分からないとお悩みませんか。そんな方におすすめの制度が「まちづくりボランティア人材バンク」です。活動の第一歩は「私はこんなボランティアができます」という情報を公開することです。そうすれば、あなたの力を必要とするグループや団体から、「教えてほしい」「お手伝いしてほしい」というお声がかかるかもしれません。広島市まちづくり市民交流プラザが、ボランティアを依頼したいグループ・団体とボランティア登録者の仲介を行い、双方の希望に合う活動の場をコーディネートさせていただきます。

ボランティア登録に必要なものは、あなたのやる気だけです。仕事や趣味等で得たあなたの知識や技術を、ぜひ「まちづくり」にお役立てください。  
なお、まちづくりボランティア人材バンクは、政治・宗教・営利目的での登録並びに紹介申し込みは受けておりません。また、依頼があれば、紹介をさせていただくシステムです。登録された方に、もれなく活動の場をお約束するものではないことを予めご了承ください。

**登録内容の一例をご紹介します。**

- 学習・子育て／子育て支援講演会、コミュニケーション能力を高めて人間関係を築く、乳幼児と保護者のふれあい(リトミック・メンタルケア)、小中学生対象キャリア講演
- 社会・歴史／平和について語り、カーブの歴史語り部、まちの地理や歴史を歩いて深く知る
- 自然・環境／環境にやさしい遊び、自然素材を使ったクラフト、野山の自然を楽しみながら健康を考える、ゴミ分別・リサイクル方法について
- 技術・ICT／パソコンの指導全般、デジタル教材の作成指導、スマートフォンの

## Interview 2

付箋を使った、タスク管理&アイデア整理術 たがしら かずしげ  
田頭 和茂さん

### 付箋を使い頭の中を『見える化』すると 効率よく行動でき、時間に余裕が生まれる

企業などを中心に、『付箋を使った、タスク管理&アイデア整理術』のセミナーを行っている田頭さんは「やるべきことを細分化し、時間を管理する。そのために優先順位を決めて付箋に書き出すことにより、驚くほど効率よく動けるようになるんです」と話します。

田頭さんが付箋の可能性に出会ったのは、令和2年『付箋を使った仕事術セミナー』に参加したのがきっかけです。実践すると、生活や仕事のはかどり方が劇的に改善されたそうです。こうした自身の変化から、続けられない、行動力がない、ミスが多いなど、悩んでいる人に伝えたい、との思いが募り、令和5年7月に人材バンクへ登録。令和6年2月の人材バンク発表会で「付箋を使った仕事術」を講演しました。

講演会ではまず、頭の中にある1か月間の「やるべきこと」を付箋に書き出してみます。それをさらに細分化していくと付箋は200～400枚に及ぶことも。実際に改めて自分の頭の中を

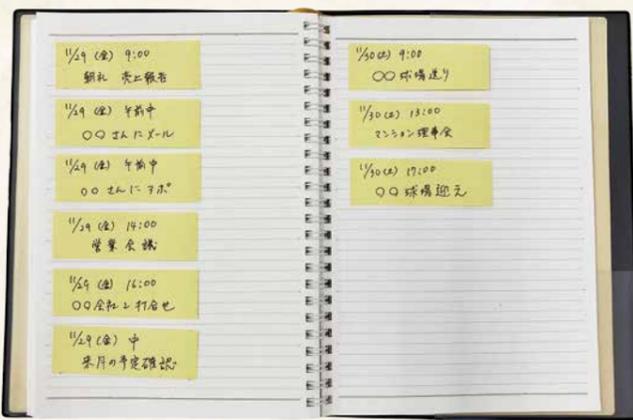


▲人材バンク発表会の様子(令和6年2月)

『見える化』すると優先順位を決めやすくなるといいます。受講をきっかけに実践している参加者からは「日々の仕事に追われなくなった」「イライラや焦燥感が激減した」などの感想が寄せられています。「頭の中のことを付箋に書き出すこ

とで、タスクが細分化できます。そうすると、これは本当にやらなければならないこと?または、これは誰かに頼んでもいいんじゃない?など、新しい発見や人に頼る選択肢が増え、自分にも余裕が生まれてくるんです」と田頭さん。さらに、細かく書き出すことが習慣になると、言葉使いも丁寧になってくるそうです。

「頭は記憶ではなく考えることに使ったほうがいい。考えることは自分にしかできないけれど、記憶は付箋がやってくれるんです。限りなく負担を減らして本当に大切(コア)なことに集中できる環境を作ることで、空いた時間を自分に還元できるようになる、これは仕事だけではなく家事も同じ。忙しい日々をタスク管理してみてください。もちろん『お昼寝』だって立派なタスク。あらかじめやるべきこととして付箋に書き出してみると、自分を肯定することにも繋がる」と優しく微笑みます。デジタルが溢れる今、あえてアナログな方法で余裕を取り戻す、今の私たちに必要なことではないかと感じました。



▲付箋の書き出し例

### まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・実技指導などを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち(登録ボランティア)の紹介・あっせんをしています。毎月第4土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけますので、どうぞご来館ください。  
日時/12月21日(土)、1月25日(土)、2月22日(土)、3月22日(土)  
毎月第4土曜日午後2時～3時半(今年度12月のみ第3土曜日)  
※時間は変更になる場合がございます。※テーマはプラザ HP やチラシでお知らせします。※無料：要事前申込

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…  
広島市まちづくり市民交流プラザ ☎(082)545-3911 FAX(082)545-3838